



Who returns and becomes a regular blood donor? Analysis of a donor database in Fukushima, Japan

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2019-01-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 樫村, 誠 メールアドレス: 所属:
URL	https://fmu.repo.nii.ac.jp/records/2000216

論文内容要旨

しめい 氏名	檜 村 誠
学位論文題名	福島県における複数回献血者の特徴 ー献血者データベースの分析ー
【目的】 福島県は、地域的に山を挟み三地域に分かれ、人口が分散し、血液センターは各地域にあるが、地理的な特性、気候は献血者の確保を難しくする。本研究では、献血者の確保対策を検討するために、血液事業統一システムデータを用いて、初回、再来、複数回献血クラブ会員の献血者の特徴について解析した。 【方法】 システムから抽出した、2014年7月から2015年6月まで1年間で献血を実施した献血者数50,954人のデータベースを用い、初回献血者(以下、初回者)は2,030人(40%)、再来献血者(以下、再来者)は2,137人(5%)をランダム抽出し、複数回献血者クラブ会員(以下、クラブ会員)1,907人全員を対象とした。調査項目は、データは11項目を用いた。基本属性(年齢、性別、血液型、職業、地域)、献血関連(副作用、応諾意思、献血施設)、身体・生活習慣(BMI、収縮期血圧、睡眠時間)である。 【解析方法】 初回者が再来者に移行、更に再来者がクラブ会員に移行する要因を探るために、項目について各々2群間の比較をした。単変量解析で有意差($p < 0.05$)があった項目を、多変量解析(ロジスティック回帰分析)に投入し、オッズ比と95%信頼区間(95%CI)を求めた。年齢は、献血関連と身体生活習慣関連の分析における交絡因子として、投入した。 【結果】既献血回数は、再来者は中央値7回(25パーセンタイル 3、75パーセンタイル 16)であり、クラブ会員では60回(31、112)であった。再来者に関連する多変量解析で有意であった基本属性は、年齢(OR 2.40)と職業[公務員に対して、会社員(OR 0.61)、高校生・大学生・その他学生(OR 0.34)、主婦・自営業・その他(OR 0.59)]、献血関連では、応諾意思なし(OR 0.27)、固定施設の献血(OR 1.78)が有意に関連、身体生活習慣関連では、BMI	

値 25 以上 (OR 1.28)、睡眠時間 6 時間未満 (OR 0.77) であった。クラブ会員に関連する多変量解析で有意であった基本属性は、女性 (OR 0.69)、職業[公務員に対し、会社員 (OR 0.79)、高校生・大学生・その他学生 (OR 0.52)] [主婦・自営業・その他 (OR 1.13)、地域[中通りに対して、県外 (OR 2.56)]、献血関連では、応諾意思なし (OR 0.58) 固定施設の献血 (OR 33.1)、身体・生活習慣関では、収縮期血圧 140 以上 (OR 0.71) と睡眠時間は 6 時間未満 (OR 0.69) であった。

【結語】

複数回献血クラブ会員は、既献血回数が多く、成分献血が多いという特徴があった。若者と女性は再来献血者やクラブ会員になりにくく、また、献血場所と健康状態が関連していたことが明らかになった。若年、女性をターゲットにする工夫、献血場所と健康状態を考慮した、献血者募集して保持するための努力は、現在および将来的に安定した血液供給を確保するために推奨される。献血者それぞれの傾向を分析することで、エビデンスに基づく献血者の確保対策を検討することができた。

※日本語で記載すること。1200字以内にまとめること。

学位論文審査結果報告書

平成 29 年 11 月 20 日

大学院医学研究科長様

下記のとおり学位論文の審査を終了したので報告いたします。

「審査結果要旨」

氏名：檜村 誠

学位論文題名：福島県における複数回献血者の特徴
ー献血者データベースの分析ー

複数回献血クラブ会員を確保することは、医療現場へ血液製剤を安定的に供給するために重要である。申請者は、2014 年から 2015 年までの 1 年間に福島県内で献血を行ったドナーデータを後方視的に解析し、クラブ会員の特徴を明らかにし、会員数を増やすための対策を考えた。

具体的には、献血者データベースから初回献血者と再来献血者をそれぞれ約 2 千人ランダムに抽出し、クラブ会員献血者約 2 千人との間で、基本属性（年齢、性別、血液型、職業、地域）、献血関連（副作用、応諾意思、献血施設）、身体・生活習慣（BMI、収縮期血圧、睡眠時間）の 11 項目について比較検討を行った。

その結果、社会人と比較して、学生や女性は複数回献血者になりにくいこと、社会人の中でも公務員よりも会社員は複数回献血者になりにくいことが明らかとなった。浜通りや会津地区では中通りよりも複数回献血者の割合が少なかったが、これらの地区の固定献血施設の開設日数が少ないことが関連していると考えられた。献血関連では、クラブ会員は移動献血施設よりも固定献血施設を好んで献血を行うこと、初回献血者で迷走神経反射の副作用の頻度が高いことなどが明らかとなった。身体・生活習慣では、収縮期血圧 140 以上や睡眠時間 6 時間未満などの不健康状態も複数回献血者となりにくい因子として抽出された。また、複数回献血クラブ会員は既献血回数、中でも成分献血が多いことなどが確認された。

今回の解析結果から、今後ドナーの献血回数を増やすために取りうる対策がみえてきた。例えば、若者や女性をターゲットとした献血啓発運動や、移動献血施設の環境整備による再来献血者の獲得などが考えられる。

本研究で得られたデータは、ドナー献血回数を増やす対策を講ずるうえで、極めて貴重な資料と考えられる。本研究内容は既に英文科学雑誌にも受理されて

おり学位授与に値する。

論文審査委員	主査	池添隆之
	副査	大平哲也
	副査	志村浩己